

コミセンレポ

コミセンまつり開催決定!

和白5校区が主体となって昨年開催された『コミセンまつり』。第2回、来年2月15日の開催も決定いたしました! 昨年に引き続き、普段は和白5校区で活動している団体による5F多目的ホールでの演目披露、3F体育館で展開されるスポーツ競技やレクリエーションの数々、そして2Fのチャイルドルームでの子どもたちのための催しなど、幅広い世代の方々が楽しめる祭りを計画中です。また昨年

は1日だけだった作品展示も、今回は事前の2週間程度にすることも検討しています。

現状(11月現在)は、当日の運営のキーパーソンとなる主事さんの企画会議や、出演者のみなさんが出席する説明会、そして実行委員会など、実施に向けたさまざまな準備が進行中です。また実施へ向けた支援のお願いも始まっています。地域の素敵な文化のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

コミセンまつりの続報はコチラ!

◎コミセンわじろHP又はFacebookページ
◎併せて館内にも情報を掲示いたします。



親子で釣り体験in志賀島!

9月23日、朝6:00から、志賀島漁港で親子が参加して行なう釣りと食育のイベント『親子で釣り体験in志賀島』が開催されました。このイベントは福岡市ボランティアセンターあすみん主催、コミセンわじろが会場となり展開された『地域デビュー入門講座』が起因となり、参加者で結成された「勝手に地域応援隊」が初めて開催したです。海の豊かさを実感する釣り体験と、調理を通して生き物をいただく大切さを学ぶ食育を実践したイベントとなったのですが、スタッフとしてコミセンわじろの地域活動応援課も数名が参

加。サポートさせていただきました。

地域の豊かな資源を、活性化のために活かす。その夢を持つ方々が手を取り合って一歩進み、次につながる瞬間に立ち会えて、清々しい気持ちになりました。

今回のイベントでは志賀公民館様、勝手に地域応援隊のみなさま、大変お世話になりました。地域の魅力を応援する活動、次回も期待しております。

何か始めたい方はコチラ!

「活動に参加したい!」「何か始めたい!」という方はあすみん又はコミセンわじろ地域活動応援課までご相談ください!



コミセンわじろ
WAJIRO Regional Community Center

〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27

☎092-608-8480 FAX: 092-608-8485

【開館時間】午前9時から午後9時まで(多目的ホールは午後10時まで)

【休館日】毎月最終月曜(祝日のときは翌日)、及び年末年始(12/28 ~ 1/3)

より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。

公式HP <http://wajiro.info>

facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中!

facebook www.facebook.com/komisenwajiro



福岡市和白地域の魅力、活動サークルの紹介など
みなさんの活動に役立つ情報を発信します

地域とあなたが、もっとつながる

[ワジコ]
wajico vol. 07
2014 Winter

pick
up

わじろじまん 〰️ 守りつがれている「山誉め祭」

わじろ元気印 〰️ 三苦校区の助けになりたい





わじろじまん

和白5校区の伝えたい「誇り」をご紹介します

志賀島で守り継がれている 神事「山誉め祭」

志賀島にある志賀海神社では、いにしえより守り継がれている神事が数多くあります。そのなかでも「山誉種蒔漁獵祭（やまほめたねまきかりすなどりのまつり）」と、「山誉漁獵祭（やまほめかりすなどりのまつり）」の2つは、祭礼組織が変容しながらも古態をとどめている珍しいものとして、昭和35年に福岡県無形民俗文化財の指定を受けています。

共に「山誉め祭」と呼ばれていますが、今回は秋に収穫された穀物や魚類を神前に供え、これを感謝する「山誉漁獵祭」を紹介します。

古代から続く神社と伝承

約1700から1800年前、神功皇后が三韓征伐の際、志賀海神社を守る阿曇氏の祖である阿曇磯良（あずみのいそら）に船頭を束ね御舟を導く協力を要請しました。阿曇氏の協力もあり、無事三韓征伐を終えた神功皇后は帰路、志賀海神社を訪れ「山誉め祭」をご覧になると、実に面白い儀式であるとして「志賀の浜に打ち寄せる波が途絶えるまで伝えよ」と命じ、今も伝承されています。

志賀海神社の祭祀は現在5名の地元の人々による社人（しゃにん）組織によって執り行われます。現在の行事は簡略化されている部分もありますが、江戸時代に書かれた「筑前国続風土記付録（ちくぜんこくぞくふどきふろく）」にも社人組織に関する記述があり、この祭祀が受け継がれてきた歴史を見ることができます。

社人たちが裏山から伐り出した椎の木を神前の盛り砂に立て、敷かれた筵（むしろ）に社人達が座り祭祀が始まります。



この人に聞きました！

坂本 勲さん
志賀海神社氏子 総代

まずは志賀三山（勝山、衣笠山、御笠山）を祓います。次に扇を開き拝したあと、三山が豊かになることを祈念して「あらよい山、繁った山」と三山を誉め称え、山を荒らす鹿を射る所作や、ろを漕ぎ鯛を釣る所作などが社人により演じられます。この一連の神事は、神功皇后がご覧になられた祭祀の所作を残しています。

地域の良心の原点

「社人というのは、氏神様に奉仕する立場にあります。『山誉め祭』でも神職の補助として祭祀を司ります。日頃から氏神様にお守り頂いているということに感謝して、祭典の準備や後片付けをしたり、時には神職の替わりとして神前に祝詞を奏

上しています。この地域では氏子同士や地域が助け合う心をもっていますが、神社がその原点にあるように思います。」（志賀海神社氏子総代 坂本勲）



△エリアマップ（志賀島バス停から徒歩10分）



①氏子さん達による儀式的所作、鯛釣りに向かう様子を表現／②楼門と太鼓橋（育民橋）
③参道入り口の鳥居



わじろ元気印

この地域で「力いっぱい」活動する団体の情報

三苦校区の 助けになりたい。

今回紹介するのは、三苦校区で活動する「三苦営繕おたすけ隊」です。結成から1年半、地域の高齢者を助ける活動は大変評判になっています。営繕とは建物の修繕などを指す言葉ですが、生活に必要な作業のことを含むようになりました。自治協議会や校区内の民生委員さん達とも連携しながら幅広く営繕活動を行っているみなさん。今回は隊長の早田正大さんにお話を聞きました。

活動をはじめたきっかけは？

三苦校区の高齢化率は15.1%（平成26年現在）とまだ高くない方ですが、団塊の世代が多く、高齢化の波が押し寄せると生活に問題が発生するのではという危機感を感じていました。これでは生活に支障が出始めてからでは対応できないと思い、営繕おたすけ隊を立ち上げ、まずは勉強だと思って活動を始めました。

特徴はどんなところでしょう？

地域のいろんなニーズに対応することです。それには、ある程度の技術が必要であり、それに応じて多種の工具が必要です。私どものメンバーには仕事の経験者や資格を持った者がいますので、かんなを使った引き戸の調整から竹で作った用



具を使う水道管の掃除まで幅広く活動しています。訪問先は単身者世帯も多く、特に女性の依頼先るときには必ず女性隊員を同行させたり、民生委員さんの協力をお願いしたりしています。みなさんに安心感を与えコミュニケーションを取りながら、行動するように心がけています。

今後の活動を教えてください

現在は月に3件程の依頼があります。内容はすぐ終わるものもあれば、1日かかるものもあります。要望があればできる限り対応をしたいです。ニーズがあれば、活動内容の範囲を広げてやってい

きたいと思っています。現在メンバーは18名ですが、私にも何かできれば新たに参加される方もいます。今後は新メンバーも増やしながら、校区の各町内に対応できる体制にしていきたいです。



この人に聞きました！

早田 正大さん
三苦営繕おたすけ隊 隊長

☎092-606-4511（三苦公民館）

三苦校区で活動をしています。興味のある方は、三苦公民館までお問い合わせください。



地域の中でのマッチングが 確実に進んでいます。

応援課に寄せられる多様なニーズに対応する方法として、マッチングという方法があります。今回は地域に貢献したい

と考えていた2つの存在が結びついた、代表的なマッチングの例を紹介します。

三苦のNPO団体、循環生活研究所は、地元地域での活動の場を求めています。一方、和白病院は、地域に貢献するCSRの観点で、何か支援したいと考えていました。応援課はそのニーズ双方に可能性を見つけ両者をマッチング。NPOが主催するフリーマーケットの場所を病院

が提供するという形でのコラボが実現。この動きは5月に続き、11月16日にも開催し、近隣住民を含む数千人が来場するなど、大きな広がりを見せています。

応援課に聞いてみたい方はコチラまで

☎092-608-8480（コミセンわじろ）

相談員・スタッフが対応いたします。まずは日程調整から、お気軽にお電話ください。